

発行／喜界町議会 編集／議会広報編集委員会
〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地
TEL:0997(65)1115・FAX兼用



平成26年 初日の出 七島鼻(ポイント211)

主な内容

- 常任委員会報告 2
- 常任委員会所管事務調査報告 6
- 一般質問に6名が登壇 11
- 読者の声・編集後記 18

読者の声



上山 満則【小野津】

トンビ崎にドンとうつ波は小野津青年の度胸試しと、だんちよね節のメロデーにのせて良く歌ったものです。

終戦後の生活が貧しい時代、大志を抱き、島を離れ都会に出て天職を求め、修行して調理師となり、レストラン・ホテル・オーナーシエフとして働き、芸能人・政治家等沢山の有名人の方々に食事を供する。四十数年都会生活でした。

定年を期に親の介護と自分の人生設計に基づき、古里喜界島に帰って来ました。早いもので島人になって十三年、集落区長と民生児童委員を務めて色々なことを勉強させて頂きました。

議会を何度か傍聴し、議会だよりは毎回興味深く読ませていただいております。島民から選出された議会議員の皆さんは、喜界島発展の為にしっかりと取り組み、勉強、努力なされている働きに敬意を表します。

少子高齢化の過疎の町ですが島の将来にとって住

み良い明るい魅力ある喜界島になります事に期待します。

珊瑚礁の青い海、青い空、白い雲、輝く夜空の星は素晴らしい、喜界島に生を受けて幸せに思います。

喜界島の活性化に向けて私の思い

自然豊かで歴史と伝統文化が存在する喜界島の良さを、島外に向けて広く宣伝し多くの人に訪れてもらう観光産業を望みます。今、観光で注目を浴びている奄美大島本島との繋がりを持って、本格的に取り組む方法。

次に、基幹作物であるサトウキビは維持しながら、自然環境を守る意味から、農業を使わない産業としてビタミン・ミネラルの養分が豊富な、山海の自然食品が多様あります。田園作物・果樹・薬草・野草・魚貝類等、喜界島ならではの食材を加工商品化して島外へ発送し、外貨を稼ぎ、島興しをする。

次に町有地、学校跡地、空き教室又民家の空き家を活用提供して、島外から雇用につながる企業誘致をするのも、人口増に良いかと思えます。

町民・議会・行政が一体となってキラリと輝く島の活性化を目指して発想・努力・実行して良い結果を出せるよう切望します。

共にがんばりましょう!!

編集後記

町民の皆様新年明けましておめでとございます。

昨年は、生和糖業が三期ぶりに年内操業を開始した。生産量は、前期より二万三千トン増の八万一千トンを見込んでいた。農家のいきいきした顔や声を聞いていると二年間の不作があつたとも思えないくらい元気な活気がありすごく感激いたしました。

本町は、農業立島として、さとうきび、畜産、園芸、果樹を中心にしていきます。そして、潤命草が新たに商品化されました。町民全体でアイデアを出し合い、喜界島でしかできない商品を開発し、若者が帰ってこられる活気あふれる島にしましょう。

今年、干支の馬にちなんで、全国を駆け巡る年になるようみんな頑張りましょう。

議会広報委員
河上 弘仁



平成二十五年第四回定例会は、十二月六日から十三日までの八日間開催されました。初日は、一般質問(議員六名登壇)平成二十五年年度一般会計補正予算・特別会計補正予算条例等七件・陳情二件については、各常委員会に付託しました。

最終本会議には、平成二十五年年度喜界町一般会計補正予算、特別会計補正予算及び条例等七件を可決し、追加提案された条例五件は、原案のとおり可決、固定資産評価審査委員会委員の選任・教育委員会委員の任命については、全会一致で同意しました。

常任委員会報告

総務文教委員会

委員長 外内千里 議員

2013年度 一般会計補正予算は
8,989万7千円を
追加して
57億4,818万1千円に

●歳入の主なもの

公営住宅使用料が百五十万円、国庫支出金の総務費補助金の一億八千二百一十八千円は、地域の元氣臨時交付金の内定により、九月議会で可決しました、一般会計補正予算(二号)の財源の組み換えを行うものです。

●歳入の主なもの

事業費減額による民生費国庫補助金で、地方改善施設整備事業補助金の八百万円、土木費国庫補助金の社会資本整備総合交付金、道路分三百八十万円の減額です。財産収入の教員住宅使用料三十八万六千円の減額は単身分の2戸、家族用一戸分です。財政調整基金繰入金、八千三百四十八千円の減額は、元氣臨時交付金の内定に伴い、財政調整基金へ積み戻すものです。

●歳出の主なものについて

総務費の一般管理費百四十万円の増額は、旅費、役務費の不足分を補うも

の不足分です。財産管理費の需要費の不足分二百三十八万九千円の増額です。委託料四十九万九千円の増額は地籍調査委託料で滝川、島中間の町道で未登記部分の測量をするものです。

企画費の二百四十万円の増額は、小野津小学校跡地の、地域文化等宿泊体験学習施設整備工事に伴い、宿直室を取り壊すための重機借り上げ料とサッシ、給湯、配線、換気、空調、水周りを改修するためのものです。

喜界町公共施設整備基金費の六千二百万円の積立金は、地域の元氣臨時交付金での事業が翌年度に繰越ができたため、基金に積み立てて、二十六年度に改めて事業の財源にあてるものです。

土木費の道路維持費百五十五万円は、湾当原荒木線の土地改良に伴い、道路の壁の撤去に合わせ、道路ガッターの整備と湾五十一号線の道路舗装等であり、あわせて一般財源の二千二百五十九万六千円を減額、元氣交付金に組み替えるものです。港湾整備費は、喜界港の三千二百五十万円の設計委託料を工事請負費に組み替えるものです。

支給事業、奄美群島広域事務組合へ負担する、奄美TIDAネシア交流負担金です。

◆主な質疑について

中央公民館で対応していた埋蔵文化財の出土品の整理保存作業を現在、城久遺跡群に隣接する旧滝川小学校跡地で行っておりますが、閲覧整備も整ったため、条例で埋蔵文化財の保存・展示、活用について、名称・位置について、開館などについて定めるものです。この条例は、平成二十六年四月一日から施行するものです。

◆主な質疑について

新たに非常備消防団員への補償を条例で明記するもので、第十五条で公務災害補償を、第十六条で退職報償費を明記してあります。鹿児島市町村消防団員等公務災害補償条例、第十六条は鹿児島市町村非常勤消防団員に係る、退職報償金の支給に関する条例の規定を適応するものです。

◆主な質疑について

休館日が、閲覧者が集中すると思われる土曜、日曜、祝日となっているが、休日しか閲覧できない町民も多いと思われる。また、島外からわざわざいらした方々のこと



審査する総務文教委員会

社会教育費の学校管理費四十万円の増額は、廃校となった学校の窓ガラス破損の修理と、光熱費を増額するものです。文化財保護費の歴史民俗資料室整備委託料の二十七万五千円の増額は、新たに自然分野の写真等で充実を図るものです。

◆主な質疑について

池治湾当原線の道路整備で、二箇所未整備箇所があり、危険であるなどの様な対応をされているか。現在関係者を解し理解を求めている働きかけをしている。

●歳入について

トイレ、倉庫整備計画でトイレの個数を増やすよう要望があり、倉庫部分との調整を行う予定

◆主な質疑について

平成二十二年度から二十七年度の計画に、新たに四件のソフト事業を追加するもので、議会の議決をへて、国、県へ報告し過疎債の対象とするものです。尚、起債の七十%の交付税措置を受けられることができます。

新たに加える事業は、園芸施設整備補助金事業と名瀬、喜界間の片道、大人千円、子ども五百円を補助する、航路運営費運賃割引負担金事業、敬老金

住宅管理費百五十万円の増額は、原材料百万円を減額し、修繕料の百十五万円と、コーラル団地のしるあり対策の役務費百三十五万円増額するものです。

地域住宅交付金事業三百五十一万五千円の増額は、設計委託料百四十八万五千円を減額し、五百万円を補修にあてるものです。対象は赤連山水住宅の昭和五十四年、五十五年建設の二階建て住宅です。

消防費の非常備消防費十七万二千元は二名の消防団の退職者分です。災害対策費の百二十三万円は、不発弾処理での重機借り上げ料と、土のう袋不足分と非常用保存水と非常食サンプルの確保を試験的に行うものです。

教育費で小学校費六万円の増額は、特別支援教育支援員一名の退職に伴う減額百万円と学校転落防止対策の手すりの整備百六万円の増額と、財源の組み替えです。中学校費は施設整備材料百十万円、備品購入費百五十五万円の増額は、パソコン室の空調室外機を取り変えるものです。学校管理費の八十万円は体育館渡り廊下の屋根修理補強

を思うと、休館日を検討すべきではないか。今後の検討課題とする。

産業福祉委員会

副委員長 生駒弘 議員

●歳入について

一般会計、平成二十五年年度一般会計補正予算(第三号)保険福祉課関係

●歳入について

民生費国庫負担金八十五万円の増額は、障害者自立支援給付費負担金です。民生費国庫補助金は一千七十八千円の減額です。民生費負担金四十二万五千円の増額は、障害者自立支援給付費負担金です。民生費県補助金は五百三十七万円の増額です。

社会福祉総務費二千四百四十六万六千円の増額は普通旅費三万円と、国民健康保険特別会計操出金二千五百五十四万一千円の増額で介護保険特別会計操出金、百十五万五千円の減額です。後期高齢者医療費三十九万八千円の増額は人間ドック費、脳ドック費、PETドック費助成金です。

障害者福祉費百七十万円の増額は、障害者自立支援補給付費五十万円、障害者自立支援給付費百二十万円です。保健センター運営費十四万二千円の増額は、修繕料です。母子保健事業費、五百二十五万円の増額は、諸検診業務委託料です。包括支援センター運営事業費三十九万二千

円の増額は、光熱水費七万円、ケープラン作成委託料三十二万二千円の増額によるものです。

児童福祉総務費二百五十六万六千円の増額は、子ども子育て会議委員報酬三万円、普通旅費七万四千円、消耗品費二十七万円、修繕料三十一万三千元、通信運搬費十二万五千元、子育て支援センター事務委託料四千元、庁用備品費六万七千元、子ども子育て支援制度に関するシステム改修費百七十五万三千元です。

住民課関係について

●歳出の状況

環境衛生総務費十四万一千円は、小型家電リサイクル関係会議などの旅費です。塵芥処理費は、八百三十四万三千元を減額して補正後の額を一億九百九十六万八千円とするものです。賃金八十五万八千円、委託料のうち海岸漂着物処理委託料九百五十五万円を減額して、海岸漂着物対策推進費に組み替えるものです。旅費四万七千円、消耗品費十六万七千円、修繕費百十五万五千円増額、光熱水費の六十二万円の増額は、電気料金の値上げによるものです。委託料七万六千円は、蛍光管等のリサイクル回収委託料です。

海漂着物地域対策推進費は、新設科目です。一千四十一万八千円の内訳は、賃金百十四万四千円、消耗品費七万円、廃液処理手数料二万円、海岸漂着物の回収及び処理委託料八百六十三万九千円、車借上料四十五万六千円、県産業

廃棄物税八万九千円です。

産業振興課関係について

●歳出の状況

喜界営農支援センター運営費三百三万円の増額は、玄関の補修工事と浄化槽設置費用です。自然休養村センター運営費二十二万八千円の増額は、非常口付近の修繕とトイレの補修費用です。農地費一千五十万円の増額は、農村公園の木材劣化診断委託料五十万円と農村公園八カ所（手久津久から阿伝）の遊具の取り替え工事費一千万円です。

林業振興費五十万円の増額は、小野津（通称ハワイ付近）の町有地と集落用地との境界を画定する委託料です。

◆主な質疑の状況



審査する産業福祉委員会

議案第五十六号 平成二十五年喜界町簡易水道事業特別会計補正予算(第二号)について

平成二十五年喜界町簡易水道事業特別会計補正予算(第二号)は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ百二十万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ七億九千四百八十二万一千円とするものです。

●歳入について

雑入、百二十万円の増額は、消費税還付金です。

●歳出の状況

一般管理費百二十万円の増額は、電気料金の値上げによるものです。

議案第五十七号 平成二十五年喜界町公共下水道事業特別会計補正予算(第二号)について

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ四十七万五千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ三億五千八百四十万六千円とするものです。

●歳入について

雑入金、二百九十八万七千円減額は、雑入の消費税還付金が、三百四十六万二千円増えたため減額するものです。

●歳出の状況

一般管理費四十七万五千円の増額は、旅費十二万五千円、光熱水費二十万円、手数料五万円、重機借上料十万円です。

◆主な質疑の状況

元年度アップ事業のポイントカー

住民課関係では、海岸漂着物処理委託料八百六十一万円の中身は、との質疑に、産業廃棄物として取り扱い、中間処理業者が焼却や破砕処理をし、後は、最終処分場に搬入するので、焼却と破砕分、運搬費も含めたものです。十一月までに、百十三トン処理したとのことです。

この事業は単年度ですかとの質疑に、来年度も予定しているとの事でした。

議案第五十三号 平成二十五年喜界町国民健康保険特別会計補正予算(第二号)について

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ七十万一千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ十一億八千八百九十九万二千円とするものです。

●歳入について 国民健康保険税の二千八百四万一千円の減額は、基準所得を当初予算では前年度の一割減を見込んでいたが、一般被保険者国民健康保険税が二割強、二億円の減、退職被保険者国民健康保険税が三割、二千三百万円の減となりました。要因はサトウキビの不作によるものです。一般二十六世帯七十名、退職十四世帯三十四名の減によるものです。二十一年度は、一千九百二世帯三千三百十六名が、二十五年は一千八百十二世帯、三千五十六名と九十世帯二百四十五名の減になっています。今回の補正額は、十月末の調定額の九十二％で積算してあります。滞納額は、十月末の収納額です。一般

会計繰入金二千五百五十四万一千円は、国民健康保険税の減による法定外一般会計繰入金です。返納金三百三十万一千円の増は、診療報酬返納金で過誤請求によるものです。

●歳出の状況

一般管理費十萬五千円の増額は、システム改修費です。償還金五十九万六千円の増額は、過年度特定健診診断等の清算金で国に二十九万八千円県にも二十九万八千円償還するものです。

議案第五十四号 平成二十五年喜界町介護保険特別会計補正予算(第二号)について

議案第五十四号 平成二十五年喜界町介護保険特別会計補正予算(第一号)は歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ百十万五千円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ九億四千三百四十四万三千円とするものです。

●歳入について

一般会計繰入金百十万五千円の減額の内訳は、地域支援事業繰入金(介護予防事業)三百九十八万三千元、地域支援事業繰入金(包括的・任意事業)三十三万四千円増額で、その他一般会計繰入金は、五百四十二万二千円の減額(職員一名減によるもの)です。

●歳出の状況

一般管理費六百四十七万九千円の減額は、職員の異動によるものです。認定調査費等費、百五十七万七千円の増額は、認定調査員の備人料と一万三千円の車

ドは一年区切りか、また五十ポイントに達しない場合はどうするか

一年区切りで、ポイント数により商品券と交換できる

商品券は、どこで使えるのか

町内の登録をした事業所で使える

短期入所生活介護収入の百八十八万四千円の減額の要因は何か、

ショートステイ利用者の減によるものである

修繕費の三百二十三万円の増額は、クローラー設備の修繕料です。

議案第六十一号 喜界町子ども・子育て会費条例の制定について

この条例は、子ども・子育て支援法第七十七条、第一項及び第三項の規定に基づき、喜界町子ども・子育て会議を設置し、その組織及び運営に関し必要な事項を定めるものです。この条例は、子どもをめぐる様々な意見を募集し、解決するための会議であります。委員は、子どもの保護者、学識経験者子ども・子育て支援に関する事業に従事する者、その他(PTA会長、民生員会長、区長会会長)十名を予定してあります。委員の任期は二年です。また子ども・子育て会議の庶務は、保健福祉課において処理をします。

議案第六十二号 字の区域変更について

平成十三年度から平成二十一年度に、県営畑地帯総合整備事業城久地区が平成二十三年度に確定測量が完了し、平成二十五年に換地処分の登記が実施されて、平成二十六年三月に字の区域変更を行うものです。

議案第六十三号 喜界町簡易水道給水条例の一部を改正する条例について

この条例改正は、消費税が5%から8%に改正になるに伴い、簡易水道料金の口径別基本料金と従量料金を改正するものです。この改正によりお年寄り一人の世帯で、月に七百八十五円が八百十円、二人世帯で千四百十五円が千八十円、平均的世帯で、二千四百十五円が二千二百十円になる見込みです。この条例は、平成二十六年四月一日から施行するものです。

議案第六十四号 喜界町下水道条例の一部を改正する条例について

この条例改正は、消費税が5%から8%に改正になるに伴い、喜界町下水道条例の基本料金と従量料金を改正するものです。この改正により、お年寄り一人の世帯で月三十五円、二人世帯で四十円、平均的世帯で五十円値上がりになる見込みです。この条例は、平成二十六年四月一日から施行するものです。

総務文教常任委員会所管事務調査報告

総務文教常任委員長 外内千里 議員

去る十月二十七日から十月三十日の四日間、当総務文教常任委員会の、所管事務調査を行いましたので報告します。

今回の調査目的は、学校再編二年目となり、学校跡地の活用計画を進められているなかで、他の市町村では、どのような取り組みがなされているか、今後の参考にしないか。本町でも年々増えている、空き家対策をどの様にしているか。観光・交流の活性化にどのような取り組みがなされているか、又どの様な議会改革がなされているかを、主な調査目的と定めました。

調査過程は十月二十七日喜界島空港を出発、奄美経由で伊丹空港へ、西明石で宿泊、翌日ジャンボタクシーで、今回のメイン調査地の、岡山県美咲町を訪ねました。美咲町は岡山県の中央部に位置し、岡山市に隣接する山間地と、なだらかな平坦部が続く、気候が穏やかな地域です。

美咲町では、定本友一町長、貝阿彌議長、岡田副議長、山崎議会議務局長、産業観光課の川島担当、企画財政課遠藤課長の歓迎を受けた後、説明を受けました。

説明会では、定本町長、貝阿彌議長の歓迎の挨拶、美咲町の紹介を受け、私からは、喜界町の紹介と研修受け入

れのお礼をさせていただきました。

美咲町は平成十七年三月に平成の大合併で中央町、旭町、棚原町が合併して誕生しており、人口約一万六千人で少子化、高齢化、過疎化が進んでおります。新たな町政を進めるにあたり、第一施策の「少子化ストップ」を掲げ、町全体で取り組んでいます。

住民課では、結婚して町内に住む夫婦に、月額一万五千円を五年間支給、産業観光課では出会いの場の設定、健康増進課では、町独自の不妊治療費の助成として、町内の居住者で、一年以上子どもに恵まれない夫婦への助成金制度、住民課の多子家庭の水道基本料金の助成、若者の定住促進のための、新卒で地元で三年以上留まり、就職する者に奨励金支給、高校卒業までの医療費の助成など、その他にも、様々な制度で子育てを応援しております。

美咲町は合併以前の三町には観光に関する課はなく、観光には縁遠い町でありましたが、平成十九年四月に産業観光課が新設され、産官連携により観光が推進されてきました。観光を推進するにあたり、模索するなかで、卵かけご飯での観光客呼び込むことができたのは、美咲流卵かけご飯ストーリーとして、四つのキーワードを挙げております。西日本最大級

の養鶏場があり、百二十万羽の鶏が毎日百万個の、コクと旨みのある新鮮な卵を産むこと、日本棚田百選に選定された棚田米があること、地元産の特製の卵かけご飯専用のタレの開発、なによりも卵かけご飯をこよなく愛し、卵かけご飯を全国に広めたと伝えられた、明治時代を代表する、ジャーナリストで実業家の岸田吟香が美咲町出身であることです。卵かけご飯のしかけの元となった「食堂かめつち」は空き施設だった食堂を再利用し、第三セクターが管理運営で、多くのメディアが取り上げたため予想以上の来店者があり、知名度、観光資源の少なかつた町へ、人を呼び込むことができたとの説明でした。

研修後、現地へ向向き、「食堂かめつち」で昼食をとりましたが、大勢の観光客が、卵かけご飯目的で来ておりました。価格は三百円でご飯、卵、味噌汁、つけものと、お代わりは自由でした。

この様にどこでも在る物が魅力あるものに成る、観光資源が足元にある最たる例ではないでしょうか。

空き家等の適正化に関する条例制定につきましましては、過疎化により人口が減少し、空き家が増えたため制定にいたり、空家調査は個人財産であるため、町が地域の代表者の情報をいただき、対応している。危険廃屋については、取り壊しをお願いするが、それ以上の対応はできないとのこと。改造、

関係は四千三百四十六万三千円で整備されております。

管理運営は美咲町と財団法人美咲町農業公社が指定管理契約を結び、農村型リゾート南和気荘管理運営委員会が管理委託を受けて、美咲町より補助金と事業収入により運営されております。利用状況につきましては、入荘者はオープン当時から五人前後を推移しておりますが、平成二十四年度は八千人台に伸びております。また宿泊者数は千五百人から二千人に推移しております。

以上で美咲町での研修を終え、次の



美咲町研修

目的地である大阪に向かいました。

大阪では地方議員研究会が主催する議会改革集中講座を受講しました。

「議会基本条例の意義と役割について」をテーマに明治大学政治経済学部と明治大学公共政策大学院で講師を務める廣瀬和彦氏による講話がありました。

議会基本条例を定める意義については、議会の活性化と充実のための議会運営に関する事項を定める。また情報公開と住民参加を基本として定める。とし、栗山町議会が定めた平成十八年から平成二十三年までの間に全国の自治体で三割程度が条例を定めている。同氏は基本条例は議会改革の手段であり、目的ではないと指摘し、制定に至る過程を示している。

- (1) 議会基本条例を策定する組織体制
- (2) 基本条例の理論の研究及び検討課題の設定
- (3) 先進地の事例の研究
- (4) パブリックコメントの実施と条例案策定の検討
- (5) 最終案の策定

また策定に至る、京丹後市の事例をあげ、検討課題と行程表を示して下さいました。また条例制定にあたり、留意すべき点として次の点をあげております。

- (1) 議員間での意見交換、政策論議を行う自由討議については、一致する点や対立する論点を見つけることがで



議会改革集中講座

き、対立点についてはどこまでお互いに歩み寄るかがカギである。

(2) 執行部が議員に対して質問する反問権の必要性については、長が述べて意見に対し議会としてどの様に考えるのか問う場合、執行部に対する質問が不明瞭な場合その意図をたたく場合をあげ、効果と留意すべき点として、議員が無責任な政策提言や、意見表明を行うことを抑止する効果がある。長と議会が政治的対立から感情的対立を引き起こす場合があるとしている。

(3) 議会活動について住民に報告し、住

改修費の補助制度はあるかの質問に、その様な対応は行っていないとのことでした。

議会改革については議会基本条例を制定し、議会活動を活性化しておりその一例として、毎年三月議会の報告会を小学校校区単位で行っております。進め方は議会の報告、質問で住民の意見要望については、調査し広報誌に記載している。また本会議はネットやケーブルテレビで生中継しております。町長の反問権は認めていませんでした。

学校跡地利用については、現在地域文化等宿泊体験学習施設整備事業で、整備を進めている小野津小学校跡地を利用した宿泊・体験型施設の充実に目的とし、現地での農村型リゾート施設「南和気荘」の視察をいたしました。

「南和気荘」は児童数の減少により、平成五年に百二十年の歴史を閉じた、南和気小学校校舎を昔のおもかげを残しながら改装され、平成八年にオープンしております。敷地内に体育館、プール、グラウンド、芝生の広場、バーベキュー広場があり、建物内には、宿泊施設、会議室、体験工房、食堂などが整備され、グループ、子ども会、スポーツ少年団、大学のサークル、一般企業の研修などに利用されております。整備は岡山県の農村型リゾート整備事業五千万円、農林水産省の農村総合モデル事業一千七百四十万四千円の補助を受け、事業費は校舎改修関係で、一億三千六百八十二万三千円、校庭整備

民との意見交換を通じて政策形成に資することを目的とした議会報告会については、参加議員の発言の留意点として、議会が意思決定した事項について構成議員として行うものではない。公務との関係は条例で定められていない。公務との関係は条例で定められていないために、地方自治法百条十三項に基づき議員派遣の手続きをとることが適当であると指摘している。また、議会改革と定数、報酬問題については、切り離して考えるべきであり、少なくとも選挙がある年の一年前までに、議論すべきものであると指摘もされております。

以上研修を終え、翌日伊丹空港から奄美経由で帰島しました。今回の研修で、世界自然遺産登録を目指している現状で、どの様にお客様を迎えることができるか、再編により廃校となった施設をどのように利用できるか、少子高齢化が進む現状、今期の議会の任期中に定数削減することを決議した経緯もあり、議会としての進むべき方向性を研修できました。

産業福祉常任委員会所管事務調査報告

産業福祉常任副委員長 生駒弘議員

八月六、七日の二日間、産業福祉常任委員会の所管事務調査を行いましたので報告いたします。視察地は、鳥根県隠岐郡海士町です。海士町は外海離島・過疎化・少子化・高齢化・財政難という全国各地の自治体が抱える悩み・悪条件を克服し、島の活性化に成功している町であり、その取り組みをつぶさに視察研修することで、本町の輝く未来への指針にしたいとの思いで行かせて頂きました。

海士町は鳥根半島松江市の沖合六十kmの日本海に浮かぶ隠岐四諸島のうち中ノ島全体を町域とした一島一町の町であります。面積は三十三・四六km²、周囲八十九・一kmで入江が深いのが特徴です。平成二十二年十月の国政調査で人口は二千三百七十四人です。

外部との交通手段は船舶に限られ、本土とは二、三時間の距離であり、冬場は北西の季節風が強く欠航も多く町民の日常生活や経済活動に外海離島の地理的条件は大きなハンディキャップとなっています。過疎化・少子化・高齢化も著しく、昭和二十五～三十年には七千人近くいた人口が大きく減少し、高齢化率も四十%、就労先が少なく、十八の旅立ちで高校生の殆どが、卒業と同時に島外へ流出、Uターンも少ないため二十～三十歳代の人口が極め

て少なく、年少人口率は十%でしかありません。

農業・漁業の一次産業を主として生きてきた海士町では、昭和二十八年の離島振興法の制定以来、国の経済対策に呼応した公共事業への投資で社会資本を整備してきました。一例として、島内に集落が十四ありますが、港も十四あります。その港に係留されている漁船を守るために岸壁や防波堤の整備など、次々と公共工事が行われてきた経緯があり、公共工事によって島民の暮らしはある程度改善されてきたが、その一方で財政力以上に地方債残高が膨らみ、このまま何も手を打たなければ財政再建団体への転落も必須とみられていました。

■活性化への主な施策

町おこしに成功している自治体にはどこでも、全身全霊で取り組む首長の存在があるように思われます。平成十四年の就任から改革を主導する山内道雄町長からは島にかける熱い思いが伝わってきます。

海士町再生の道筋は「何もしなければ無人島になるだけ。公共工事依存から脱却し、島に産業を起こす。島の商品を売り、島に人を増やすこと。『人づくり・モノづくり・健康づくり』を

三本の柱として、個別の商品を売るだけでなく島を「丸ごとブランド化」して全国に響くようにしようとなりました。同時に町の活性化にはよそ者、若者こそが必要。これまでの役場の概念を捨て「住民サービス総合会社」の意識で地域経営にあたり、現場主義に徹して、これから向こう三年間が勝負と、ここを突破できれば島は持続可能な地域として自立していける。日本が直面する課題を海士町が先取りし、ここで見出した解が全国で生かされる時がきつとくると確信している。『最後尾から最先端へ』これが海士の合言葉、『ないものはない』であります。

山内町長の具体的施策を三点にしばりまとめてみました。

【1】徹底した給与削減策
自らの身を削らない改革は支持されないと平成十五年からは町三役の給与を五十～四十%カット職員給与を三十～十六%カットし、ラスパイレズ指数七十二・四の全国最低となる。また議員と教育委員も四十%カット区長報酬も十%カットすると、町内の老人クラブからバス料金やコミュニティ活動への補助金不要の申し出があり、住民からの寄附申し出も数件でるようになった。

住民と町が島の将来への危機感を共有するようになり、行財政改革はもとより、その後の地域づくり、産業振興などにも連携の輪が広がっていく契機

となった。

また、役場職員の給与削減分は出産祝い金として誕生時に第一子に十万円、第二子に二十万円、第三子に五十万円、第四子に百万円を支給すると明確化し、職員の意識・意欲の向上に役立てている。

「人間って給料が五%減ったくらいでは考え方まで変わらない。でも三十%カットとなると、何か生み出さなければ、と逆に活力がわくんです」という職員の士気の高さに驚きました。

【2】産業振興策の展開

（外貨獲得と人づくり・モノづくり）
平成十六年四月から町の産業振興を実務的に担う産業三課「交流促進課」（交流・観光・定住を担う）「地産地商課」（第一次産業の振興を担う）「産業創出課」（新たな産業おこしと雇用創出を担う）を創設し、島の玄関口であり、情報発信基地やアンテナショップでもある斐浦港の旅客ターミナルビル（キンニヤモニヤセンター）に配置し、担当職員は皆ここに移動し勤務、現場重視の展開を図った。それにもない内部部局の職員が減らされました。

また、特産品開発に関しては「海・潮風・塩」をキーワードに伝統のある産物に付加価値をつけることで販売を強化し、新たな加工産業を生み出して雇用を創出しようとなった。

海士町が事業主体となり指定管理者制度等を利用して、産業と雇用の創出に一役買っている五施設の概要を紹介

いたします。

①(株)ふるさと海士

CAS凍結センター

海士町で獲れる農・水産物を加工し、特殊冷凍して島外へ発信し、ブランド化の確立と外貨獲得を目指す。

整備内容

鉄筋コンクリート平屋 九百五十m²
凍結機二基 冷凍保管庫三基

販売実績

一億八百四十五万七千円(廿二)

事業費

四億一千四百五十五万一千円
国庫補助一/二 町費一/二

②(株)ふるさと海士 海士御塩司所

整備目的

地域資源を有効活用し、高付加価値商品(天然塩)を生み出し、収益確保と就業機会創出を図る。また、塩づくりの体験学習施設として、活用し、都市との交流を図っていく。

整備内容

木造三棟 二百八十八m²
販売実績

事業費

九百三十三万二千元(廿二)
八千九百八十二万四千円
国庫補助一/二 町費一/二

③海士いわがき生産(株)

整備目的



海士いわがき生産(株)

隠岐の新たな特産品である養殖いわがきのブランド化を推進するため、種苗生産と養殖と出荷の共同作業化を図ることにより、高品質ないわがきの安定生産・安定供給システムを構築する。

整備内容

漁業用作業保管施設 二百二十二m²
生産能力

日産 三千個
年産 二十四万個

販売実績

種苗生産施設 七十二m²
生産能力 年産三十万個

事業費

七千万円(廿二)
出荷 二十四万五千個
種苗生産 二十四万個

運営団体

国庫補助六/十 町費四/十
海士いわがき生産組合

④なまこセンター

整備目的

高齢化による漁業就業者の減少を緩和するため、水産物加工品の開発に取り組みようとしている地域であり、漁業者ばかりでなく来訪客にも魅力ある高品質の加工品を製造する施設を確保することにより、交流人口の増加に寄与する。

整備内容

木造平屋 二百五十八m²

販売実績

二千五百九十九万二千元(廿二)

事業費

七千万円
国庫補助一/二 町費一/二

運営団体

株式会社 たじまや

⑤(株)ふるさと海士 承久海道

キンニヤモニヤセンター

整備目的

地域資源を活用しつつ農漁村滞在型余暇活動の展開を図っていくために町の玄関港斐浦港に情報発信・交流拠点施設を設置。待合所機能の充実を図るなど利用者の利便性を高め、購買飲食サポート機能との一体的整備を行うことで、交流人口の拡大、新たな就業機会を創出し、地域活性化を図る。

整備内容

木造二階建て 一千五百六十三m²

販売実績



さくらの家

海士町はその他にも、公共事業減少を経営の多角化で補うとした島一番の建設業者が畜産業に参入し「有限会社隠岐潮風ファーム」を立ち上げた際、農地法の規制がかかったのをクリアできるよう支援(島中を構造改革特区と

地域食材提供コーナー
二千二十七万八千円
特産品販売所
三千三百七十六万八千円
農産品直売所
二千九百五十二万一千円
水産物直販所
五千七百十五万八千円

事業費

七億円
国庫補助一/二
町費一/二(辺地債)

運営団体

第三セクター(株)ふるさと海士
(但し水産物直販所は漁協が運営している)

町政のここが聞きたい

いっぱん質問

第4回定例会で6名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。質問と答弁を要約して紹介いたします。

観光推進について



外内 千里 議員

質問 ① 世界自然遺産登録に向けて、どのように取り組まれているかと考えているのか。また、登録による波及効果はどのように活用できると思われるのか

質問 ② 現在の本町の観光スポットについて、私は十分な整備がなされていないのではないかと考えているが、今後段階的に整備の必要があるのではないのか

質問 ③ 今後の観光推進のため、飛行機の需要の高まりを考えると拡張推進の必要があるのではないのか

質問 ④ 城久遺跡群の発掘は、本町にとって不明瞭だった時代を明らかにするだけではなく、大宰府と同じ出土品を持ち、大宰府の出先機関であったのではないか、日本史の中で新たなページを開く重要な発掘であると思います

そこで、教育長に大宰府市とのこれまでの経緯と、今後の見通し、観光資源としての評価を、町長にはぜひこの機会に大宰府市との姉妹盟約を結ぶことがお互いにとって有益であり、観光資源として十分に活用できると思うが。

増加が期待されます。今後、喜界島観光物産協会や奄美群島観光物産協会など、関係団体との連携強化を図り、喜界島まで足を運んでもらえるような体験プログラムや周遊ツアーの育成、観光ガイドの育成などに取り組んでまいります。

答弁 ② 観光スポットの整備につきましては、年次的に戦跡整備や、県の観光地づくり事業を活用して、手久津久集落や城久集落に公園、花良治集落に休憩所などを順次整備しております。また、今年度は、地域振興推進事業を活用して、オオゴマダラ観察施設や、整備要望の多かったウフヤグチ鍾乳洞の階段を、町単独事業で整備しております。

本町には魅力的な観光資源が多くあります。今後は、世界自然遺産登録も視野に入れながら、有利な事業を活用し、逐次整備を進めるとともに、既存の観光スポットにおいても施設を充実させていきたいと考えております。

町長答弁

答弁 ① 奄美・琉球の世界自然遺産登録候補地は、奄美大島本島の一部と徳之島の一部と考えられており、本町はその周辺地域と位置づけられると考えております。登録時期は、最速で平成二十八年度の予定です。現在は奄美群島国定公園を国立公園に昇格させる取り組みが進められております。また、阿伝集落などに見られる、人間と自然が深くかわり調和してきた関係そのものを、環境文化型国立公園として位置づけがなされることと見られます。自然遺産登録となれば、登録地への入れ込み客

建設課長答弁

答弁 ③ 平成六年から喜界空港拡張の要望をしまりましたが、平成十五年四月に一般空港の滑走路新設または延

教育長答弁

答弁 ④ 大宰府市との今後の交流の件ですが、城久遺跡群からの出土物と大宰府の関連が言われていることなどから、

して国に申請し認定を受けた。また、障害者の自立支援にフクギ茶の商品化を目指すNPO法人「さくらの家」を支援（図書館前の敷地に100%出資で作業所開設）とまさに八面六臂の活動を展開している。「経済規模の小さな地域では、民の仕事を官がやるぐらいの意気込みが大切」という「民から官へ」を目的にしている。官が手とり足とり強力に民間をバックアップしている姿が非常に新鮮でありました。

【3】交流・観光振興策の展開 （地域活性化の源）

若者・馬鹿者・よそ者が島興しの原動力になっている。異質なものを取り入れ、多様性を持つことで変化し、成長する。まちづくりの原点は究極、人づくりにある。モノづくりと人づくりの両輪によってはじめて島が持続可能となる。

①商品開発研修生制度

平成十年から全国各地からのインターン者を町の臨時職員として受け入れ、社会保険付きで月十五万円支給している。一年契約ですが更新も可能。研修生が開発した商品に「さぐえカレー」がある。島の助っ人的存在で今まで十八人が参加し七人が定住。本年度は三人が勤務中で、研修を終えた二人が町内で起業。

②AMAFUN

若手起業家を講師に招き、二十人ほどの若者が東京からのバスに乗って海

士を訪れ、志や夢を育む特色ある出前授業や地域貢献活動などを行う企画。参加者のリビーター率六割。現在はバスを走らせなくても全国各地から集まるようになった。

③島前高校魅力化プロジェクト

海士町にある島根県立島前高校は、隠岐諸島島前三島（三町村）で唯一の高校である。少子化の影響を受け入学者が激減（平成九年の七十七人が平成二十年には二十八人）統廃合の危機にさらされた。高校がなくなると島の子どもたちは十五歳で島外へ出ざるを得ず、負担増から人口流出、U・イターン者も来なくなり、自立への取り組みが水泡に帰す、高校の存続は島の存続に直結する「ピンチは変革と飛躍へのチャンス」との信念で県と連携し改革構想を平成二十年二月に作成した。

◎平成二十二年四月「隠岐国学習センター」を創設

従来の塾の枠を超えた学校との連携により、学習意欲を高め、学力に加え社会人基礎力も鍛える独自のプログラムを展開。地域や経済の格差が生む教育格差を打破し、生徒一人一人の夢の実現を目指した。

◎平成二十二年四月「島留学制度」も新設

小規模校の課題である固定化された人間関係と価値観の同質化を打破し刺激と切磋琢磨を生み出すため全国各地から意欲ある生徒を募集するに当たり、寮

費・食費を補助する。財源は町職員の給与カット分を充てている。

◎平成二十三年四月「地域創造コース」「特別進学コース」の併設

少人数指導で難関の有名大学にも合格したりしたことが奏功して平成二十四年の入学者は五十九名と倍増した。地域と学校が一体となった「地域そうがかりの教育」を推進することで、「子育ての島」「人づくりの島」として教育のブランド化を図ることで、子ども連れの若いイターン者の定住促進につながっている。また島で生まれ育った若者が将来的に島に戻って活躍するという循環型の島づくりにもつながっています。

■施策の意義

「自らの地域は自ら守り、地域の未来も自ら築く」これこそが地方自治の原点であります。一島一町のこの町をどうしたら持続可能な島にできるか、海士町から多くのヒントを学ぶことが出来ました。海士町は人件費を削減し、起債をもつて建設事業に取り組んでいます。道路・住宅・水道などのインフラ整備ばかりではなく、護岸工事でもない。島に産業を起こし、人を島に呼び込むための投資的経費を惜しまないのであります。

「なまこセンターなど、一人のためにも多額の事業費をつかうのはいかがなものか」との声もありましたが、町長

が先頭に立ち説得に廻った。「一人の後ろにいる大勢の漁民の姿を思い起こせ」との姿勢でありました。またキンニヤモニヤセンターには、島の反対側に住むお年寄りの作った自家製野菜も並んでいました、自分で届けられないから毎朝出勤する職員が集めて廻り。支払いが月ごとに口座に振り込む。「施設が新しくできたからやっているのではなく、そのような集配作業は職員有志で十年以上前からずっとやってきたこと」なので、本当に感動いたしました。

地域再生の最大のポイントがここにあると思います。トップが変わり職員が変わる。職員が変われば役場が変わり、役場が変われば住民が変わる。住民が変われば島が変わる。持続可能な島へ変えるために海士町がした事とは何か。役場が責任をもって財政出動したことでありました。民業を盛んにするためにまずは官が思い切って投資をする、そして職員を送り込み稼働・運営する。軌道にのれば民間にすべてを託し、支援も継続する。持続可能性への危機感を全町民一丸となって共有できたからこそその施策の数々であります。「島内すべての集落、人々が元気で活動し、自信と誇りをもって生き抜いていく」事こそ自立のあり方が実現できるであろうと思います。私たちも、小粒でもきりと輝く島を目指し互いに切磋琢磨しながら頑張りたいと思います。

長事業に係る整備指針が変更され、喜界空港は基準を満たしていないので、事業ができない状況になっております。現在、サーブ機が運行しておりますが、機種が変わる場合には滑走路等のかさ上げ等もあるのではと思われま。今年度も周辺整備として、駐車場等を整備してきました。今後も県と連絡を取りながら、対応していききたいと考えています。

町長答弁

答弁 ④ 本町は戦時中の疎開先を縁に、伊佐市と、また、航路維持関係で瀬戸内町、天城町、知名町と姉妹都市盟約を結んでおります。伊佐市とはそれぞれの祭りへの参加など、親密な交流が続いております。大宰府との交流につきましても、イベントへの参加や青少年の交流など、小柳市議のお力添えにより活発な交流が行われております。姉妹都市盟約につきましても、今後の検討課題としていきたいと考えております。

教育長答弁

答弁 ④ 大宰府市との今後の交流の件ですが、城久遺跡群からの出土物と大宰府の関連が言われていることなどから、

今後、学芸委員間の交流を深めることや、考古学や民俗学の専門家を招いての講演会の開催など、相互に訪問し合う人的交流について検討することは、交流人口の拡大の上からも意義があることだと考えているところです。

町長答弁

答弁 5 世界自然遺産登録による、奄美への入れ込み客の増加が期待される中で、本町に足を伸ばしてもらうためには、旅行者、観光客など、外から見た本町の目玉づくり、情報発信のあり方を検討することが先決ではないかと考えております。

また、現地の受け皿づくりも、奄美群島広域事務組合と連携しながら、自然環境や歴史・文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えるため、エコツーリズム推進協議会を立ち上げ、エコツーリズムの全体構想策定に向け、取り組んでいます。協議会のメンバーは、喜界島観光物産協会を初め、島歩きガイドやダイビング業者、農業青年クラブ、文化関係者などで組織され、観光資源の洗い出しや意見交換、ガイド講習なども実施しているところですが、

奄美群島振興開発事業 予算2025年

質問 今後新たな交付金予算がどのように活用されるのか。奄美全体の予算であるため、各市町村の配分をどのようにされるのか。

答弁 奄美群島振興開発特別措置法の延長における一括交付金の創設につきまして、地元の強い要望が盛り込まれ、概算要求時で約三十億円が計上されていますが、財政当局との折衝途中であり、細かい点が決まるのはこれからだと聞いております。

交付金の活用につきまして、条件不利性改善事業の支援メニューです。農林水産物輸送コスト低減事業と、航空路運賃低減事業、また、従来の非公共事業であります農業創出支援事業や防災関連施設事業、サンゴ礁保全事業に加え、奄美群島成長戦略ビジョン実施計画に掲載される事業に活用していくことを要求しております。

交付金の配分につきまして、年末の政府予算案の状況を見ながら、広域事務組合を中心にルールづくりが進められることとなりますが、事業

主体となる地元の施策が反映され、かつ公平性が確保される配分ルールになるよう、取り組むたいと考えています。



乾 和夫 議員

屠殺場2025年

質問 1 屠殺頭数の減少に歯止めがかからないのは、屠殺申請手続の煩雑さが一因になっていると思うが、屠殺届け出を簡略化できないか。個人で食すときにも細々としたことが必要になっていきます。そこで、日本一の食味を持つ喜界のヤギを、特区申請する考えはないか。

質問 2 島外出荷に対して、規制緩和が必要ではないか。現行では業務用屠殺でも、廃棄処分せざるを得ない部位があります。それにとると、島独特のカラジューリなどが販売できない、全国展開できない状態であり、規制の緩和が必要ではないか。

質問 3 老朽化している屠畜場を新築し、販売所やレストランを併設する計画はないか。公的投資で、島のヤギ文化を継承、拡大し、特産品として島内外の需要を喚起すべきときではないか。観光資源にもなり、雇用や定住の促進にもつながるのでないか。

町長答弁

答弁 1 自家用屠畜場の届け出については、屠殺を行おうとする日の五日前までに、所管保健所長に対して行わなければならないと、屠畜場法施行細則に定められています。届け出の事項についても、法令で規定されています。届け出は食肉衛生上必要なものと考えていますが、添付書類の省略等については名瀬保健所と今後協議してまいります。

答弁 2 ヨーロッパの調査において、ヤギへのBSEが確認されたと考えられていることから、我が国のヤギに関する安全対策として、牛の部位とは異なりますが、異常プリオンタンパク質が蓄積する扁桃、脾臓、小腸及び大腸などの特定部位の除去、焼却が義務づけられております。伝染性海綿状脳検査も実施されているところであり、国民の健



生駒 弘 議員

環境問題2025年

質問 1 鹿児島県のごみリサイクル率は県平均で十六・六%のようですが、喜界町では県平均よりも大きく下回って

います。鹿児島県でのリサイクル率トップは、大崎町で約八十%であり、ごみ分別種類は二十七種類で、町民が一緒に取り組んでいるようです。喜界町でも町民に働きかけ、ごみの減量、再資源化に取り組んではどうか。

質問 2 小型家電リサイクル法、使用済み小型電子機器等再資源化促進法が、本年四月から施行されました。喜界町の取り組みはどのようにされるのか。

町長答弁

答弁 1 第一回定例会で質問のあった、段ボールの資源化については、今年度のごみ処理対策検討委員会などでも議論をしてもらったところですが、焼却用燃料としての役割や、輸送コスト、ストックヤードの確保、圧縮設備など課題も多く、引き続き調査・検討を行っていきたくと考えています。資源ごみとして、今年度、新たにリサイクルを計画しているものは、使用済み蛍光管と乾電池です。蛍光管にはわずかながら水銀が含まれており、環境汚染の防止からも実施いたします。

答弁 2 小型家電リサイクル対象品目には、有償取引となるものだけでなく、逆有償となる品目もあります。さらに認定事業者の処理工場までの輸送コストの財政負担もあり、認定事業者からの情報収集にも努めながら、今後の検討をしてまいります。家電リサイクルや自動車リサイクル事業には、企業団体による離島対策支援事業により、海上輸送費の一部助成もあります。国はリサイクル推進施策に対し、離島への配慮が十分とは言えず、今後全国の離島市町村とも連携しながら、国に対して支援策を要望してまいります。

町民生活の安心安全に2025年

質問 1 胃がんの大きな原因とされるピロリ菌を除去する薬の保険適用の範囲が、慢性胃炎まで拡大されました。胃がん検診にピロリ菌検査も取り入れたらどうか。

質問 2 喜界町では、全国に先駆けて妊婦検診や出産時の宿泊費の助成や乳幼児医療費助成も小学生まで拡充されていますが、出産祝い金も出し

たらどうか。

保健福祉課長答弁

答弁 1 今後の健診の方向性としては、基本的な健診項目は平成二十五年と変更ありませんが、新たなオプショナル検診として、ピロリ菌胃がんリスク検診を検討中です。厚生連の検査体制の準備等の都合もありますので、実施の明言は現状ではできませんが、今後協議を進めてまいります。検査料金は実費で二千五百円かかります。

また、厚生連の健康管理センターの副所長、宮原広典医師からの注意として、ピロリ菌胃がんリスク検査は、あくまで胃がんのリスクの程度、言いかえれば胃の健康度を分類する検査であり、胃がん検診と混合しないように十分説明してほしいとのことです。

答弁 2 産婦人科医の常駐していない本町では、産み育てやすい環境づくりを念頭に、母子保健事業を実施してきました。特に、妊婦健診と出産時の旅費と宿泊費の支援事業については、平成十七年度から実施し、年々拡充してきました。

また、乳幼児医療につきましても、今年度から対象を小

康を損なう恐れのある特定危険部位の規制緩和は困難かと思えます。過去に奄美大島の野ヤギを屠畜場の獣畜としての規定から除外する提案がありました。当時、厚生労働省の回答としては、国民の健康を損なう恐れがあるという点で、認めることは困難との回答であったということです。

答弁 3 屠畜場の移転、新築については、立地候補地の選定など解決すべき課題があるが、建設に向け検討を行っているところです。食肉販売所やレストラン施設は民間に委ねるべきで、屠畜場との併設は現在のところ考えていないところです。



榮 哲治 議員

町営住宅のトイレの水洗化2025年

質問 上嘉鉄集落にある町営住宅では、いまだに汲み取り式のトイレであります。水洗化されない理由は何か。

答弁 平成二十六年度は上嘉鉄住宅の外装と水洗化を含めた整備をいたします。平成二十七年以降も長寿命化計画により、水洗化を含め、事業を実施していく予定です。

観光資源の整備2025年

質問 1 観光資源の発掘はどうか。

質問 2 駐車場とトイレの整備はどうか。

質問 3 ボランティアガイドの育成はどうか。

町長答弁
〔答弁〕 阿伝集落が自然と調和した景観を維持しているというところで南海文化賞を受賞し、また、荒木海岸は隆起サンゴ礁上の植物群落が貴重だということ、文化審議会が国の天然記念物地域に指定するよう、文部科学大臣に答申しています。

こうした観光資源には、自然や動植物、史跡や景観だけでなく、島唄や八月踊り、各集落の祭りなど、暮らしの中で息づく伝統文化も重要な資源と想っております。

現在、各種団体が組織するエコツーリズム推進協議会において、全体構想を策定するための資源の発掘、洗い出しに取り組んでいるところです。さらに、新たな観光資源を発掘するためには、違った視点から見ること大切だと思いますので、観光客へのアンケート調査も考えております。

企画課長答弁
〔答弁〕 ② 公園や観光施設の利用者は車での移動が多いことから、施設整備の際には駐車場の確保に配慮しております。手久津久集落の巨木ガジユマル周辺も、今年度、畑総事業に伴う換地手続で駐車場用地を確保したところです。



上間 一寛 議員

質問 公有財産について

〔質問〕 休園している潮観園の活用策について、平成二十年六月と平成二十二年三月に質問をしております。現在の施設の維持管理はどうなっているのか。また、これからの有効な活用策はあるのか。

総務課長答弁

〔答弁〕 休園から七年余りが経過し、施設もかなり傷みがあります。現在、施設の維持管理は行っておりませんが、小野津集落がボランティアで、施設周辺の草刈り作業等を行っていただいているところです。

休園後の再開は当時から厳しい状況で、施設の活用策についても幾つか所管とする担当のほうでいろんな策が出され、地域や福祉関係の利用を含め、検討はしていますけれども、補助金適正化法で、処分や他の用途への使用の制限等の問題もあります。また、施

今後も、利用者の利便性を考慮し、必要に応じて観光施設の駐車場整備を検討してまいりますと考えています。

トイレ整備については、本町では公園や海水浴場など、十一カ所に公衆トイレを整備しております。現在、島の南東側に公衆トイレが少ないことや、島歩きのコースにもなっていることから、阿伝集落にトイレを整備する計画を進めています。

今後の整備につきましては、管理上の問題もあるため、適切な場所、規模等を考慮した上で整備を検討していきたいと考えています。

次に、ボランティアガイドの育成についてですが、本町のボランティアガイドとしては、皆既日食を契機に発足した「よんより喜界島」が島歩きのガイドとして活動しております。現在、会員は八人で、七集落のコースがあり、月一回の定例会で、活動状況についての意見交換や課題の解決策等を協議しているようであり、今後、活動を広げていくためには、後継者の育成や魅力あるコースの造成、情報発信等が課題になってきます。入り込み客の増加が期待される中で、体験型観光の受け皿として活動が重

要になる団体ですので、窓口である喜界島観光協会の連携しながら、サポートをしていきたいと思えます。現在、奄美群島広域事務組合と連携して、喜界島エコツアーガイド連絡協議会を立ち上げ、救命救急講習や各種ツアーに関する研修を行うなど、ガイドの人材育成に取り組んでいるところです。

質問 役場職員の地域行事参加について

〔質問〕 近年、人口減少で、特に町の中心部から離れた集落では、行事運営が大変困難な時期にきております。集落ごとに違う八月踊り等の伝統芸能や、歴史文化等を次世代につなぐためにも、一人一人が積極的に参加すべきだと思います。特に役場職員は、公僕としての使命を自覚して参加すべきだと思います。そこで、職員が積極的に参加しやすいためにどのような対策を講じているか。

町長答弁

〔答弁〕 町では、集落行事である島遊びやウヤンコー、シバサシーについては、喜界町職

員の職務に専念する義務の特例に関する条例を適用し、半日を職務専念義務の免除という形で、行事に参加できるような措置を講じているところです。平日の場合は業務に支障のないよう調整を行わなければならないので、対象者でも職場に残らなければならぬといったケースも出てきます。町の維持発展のためには集落が元気でなければならぬ、住民が一体となって集落を元気にしてほしいと、切に思っているところです。今年度から集落担当職員制度を導入し、担当職員を中心に区長さんとの連携や地域とのつながりをさらに深める努力をしているところ、これからは職員には積極的に地域貢献に努めるよう、意識の高揚を図ってまいりたいと考えています。



谷本 泰男 議員

質問 休診中の診療所について

〔質問〕 今年三月の定例議

から九ヶ月が経ちましたがその間の経緯について

〔質問〕 今後の見通しとあり方について

町長答弁
〔答弁〕 ② 今年三月の定例議から九ヶ月が経ちましたが、その間の経緯については、現在、五カ所に医師募集をかけており、七月に鹿児島県国民健康保険団体連合会より一人、照会を頂きましたが、残念ながら不調に終わっています。

また、九月まで喜界徳洲会病院に勤務されていた医師から「将来（三、四年後）喜界島で開業したい」との申し出がありました。また、先日本町において郡医師会の会合があり、その席で私から「医師を紹介したいか」一打診するなど、機会ある毎に診療所の医師確保に努めているところでございます。

今後につきましても、色々なチャンネルを通じて情報の収集に努めると共に、引き続き関係団体のホームページに掲載し、医師を募集してまいります。

ます。このような事情から、水道事業で基本料金の免除や助成をすることは厳しい状況にあると考えています。

保健福祉課長答弁

〔答弁〕 ② 平成二十四年度の幼児医療費の決算額は、三百三十万円余りです。平成二十五年は支給対象を小学生まで引き上げたことから、一千万円余りの予算を計上しました。これを高校生まで引き上げた場合、平成二十四年度決算をベースに単純計算いたしますと、一千五百万ほどの予算が必要となります。乳幼児医療につきましては、県の補助が二分の一あり、対象は小学生未満となっています。小学生以降の医療費助成については、町の全額負担です。今年、対象年齢を拡充したばかりですので、その支給状況、助成状況等を分析して、検討してまいります。

町長答弁

〔答弁〕 ③ 本町には、平成二十一年度再結成された農業青年クラブがあります。町からの助成金二十万円と県からの助成金を活用し、現在二十二名の会員のうち十二名が独身で、農業の傍らボランティア等、精力的に活動を行っておりま

質問 子育て環境の充実に ついて

設内部の設備等の傷みがかなりひどく、数千円規模にも及ぶ補修費用が必要となることなどがネックとなりまして、なかなか前へ進んでいないのが現状です。

当初の目的にかなう福祉関係の施設としての活用が厳しい状況ですので、今後、島内外への、民間を含めまして、要望があれば活用していただける方法を探っていきたく思っております。

〔質問〕 ① 生活支援として三人

以上の子供がいる家庭で、三人目以降の子供が義務教育を終了するまで、水道の基本料金を助成することを考えてもいいのではないかと。

〔質問〕 ② 国のほうでは、二〇

一〇年から公立高校に通う子供の授業料を実質無料化しております。子育て家庭は大きな恩恵を受けております。我が島の中高生を含めた全ての子供が、医療費の助成対象となれば、厳しい財政事業であっても、多くの町民は理解していただけるのではないかと。

人事

○固定資産評価審査委員会委員の選任



固定資産評価審査委員会委員
豊 富喜雄 氏
任期は、
前委員の残任期間
平成25年12月13日から
平成27年3月31日

○教育委員会委員の任命



教育委員会委員
金久 義人 氏
任期は、
平成25年12月16日から
平成29年12月15日

○教育委員会委員の任命



教育委員会委員
積山 泰夫 氏
任期は、
前委員の残任期間
平成26年1月6日から
平成27年1月2日

陳情の審査結果

提出者	件名	所管委員会	審査結果
奄美市 奄美地区労働組合総連合 議長 城内 淳一	「特定秘密保護法案」の廃案を求める陳情	総務文教	継続審査
鹿児島市 反原発・かごしまネット 代表 向原 祥隆	「県民の安全が担保されない拙速な川内原発1・2号機の再稼働を認めない決議」の採択を求める陳情	総務文教	継続審査

意見書の審査結果

提出者	件名	審査結果
生駒 弘	過疎対策の積極的推進を求める意見書	採 択
生駒 弘	介護保険制度における新たな地域支援事業の導入に係る意見書	採 択
生駒 弘	消費税の軽減税率制度の導入を求める意見書	採 択

公益に関わる意見書案が議員から提出され審議の結果、全会一致で可決され、関係行政庁に提出し、その実現を要請しました。

諸般の報告

議長 中島 智一

◆十一月九日、奄美文化センターにおいて、奄美群島日本復帰六十周年記念事業が開催されました。来賓には、太田昭宏国土交通大臣、保岡興治衆議院議員、伊藤祐一郎県知事、英辰次郎東京奄美会会長とそれぞれ御祝辞をいただき、ほか千三百名の方々が参加され、「日本復帰の歌」や「復帰六十周年、明日のメッセージ」と題し、各市町村から代表が登場し、映像と朗読で祝典を盛り上げました。

◆十一月十二日、東京、ホテルフロラシオン青山において、第三十二回離島振興市町村議会議長全国大会が開催され、九十六市町村の議員が参加されました。来賓の、国土交通省、自民党、民主党、公明党等の国会議員の祝辞をいただきました。その後、全国離島振興市町村議会議長会が開催され、宣言文の朗読、決議の後、奄美群島振興開発特別措置法及び小笠原諸島振興開発特別措置法の改正・延長、離島航路航空路支援法の早期制定、特定国境離島の保全に関する特別決議、三件及び十四点の要望を採択しております。

◆十一月十三日、NHKホールにおいて、第五十七回町村議会議長会全国大会が開催

され、「真の分権型社会の実現を目指して」を主題に、国会議員の多数参列のもと、安倍総理大臣、伊吹衆議院議長、山崎参議院議長、石破幹事長等、各党代表、全国町村会会長等の来賓の祝辞をいただきました。また、東日本大震災からの復興及び大規模災害対策の確立ほか十六件に関する決議文の採択、特別決議五件、要望二十四件、各地区要望九件が採決されました。

◆十一月二十一日、自民党本部において、二十五年度末に期限切れとなる奄美群島振興開発の推進に関する要望書の延長を前提に、次期奄振で最大の目玉となる一括交付金、農水産物の輸送コストの軽減、航路・航空路運賃の低減を含む予算概算要求について、自民党奄美振興特別委員会が開催されました。

◆保岡興治奄美振興開発会長を初め、地元選出国会議員多数の参加をいただき、伊藤知事も参加されました。森山裕事務局長司会のもと、奄美群島振興開発特別措置法の延長・拡充及び奄美・琉球世界遺産登録の推進など、十一項目の提案書を採択いたしました。その後、二班に分かれて、国土交通省、農林水産省、総務省、各関係の省庁や各大臣の政務官の事務所に挨拶と、提案書を説明し、平成二十六年以降の奄振延長及び一括交付金の実現に向かって、国の厳しい歳出予算の中、要望したところで

ボランティア活動



平成25年11月15日、ボランティア活動の一環として役場コミュニティーセンター前庭にゆりの植え付けを行いました。今後も色々な、ボランティア活動等を実施します。

次の議会は、3月上旬を予定しています。

午前 9:30 皆様の傍聴をお待ちしています。

次回定例会

●お問い合わせ先 TEL65-1115